

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①第25回健康ふれあいマラソン大会
- ②厚真未来カレッジ／第3回文化・スポーツ教室／第2回ディスカバリーカルチャー
- ③軽舞事務所 秋の特別開放／北風沙織さんによるスポーツ講演会のお知らせ
- ④『こども手帳』寄贈／陶芸教室のお知らせ／ミニバレーボールウィンターリーグ／9月定例教育委員会
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動報告



第25回 健康ふれあいマラソン大会結果

10月13日（月・スポーツの日）、第25回健康ふれあいマラソン大会が開催されました。今年度はウォーキングの部も含めて106人の参加申込があり、幼児から大人まで幅広い世代の町民が秋のさわやかな気候のもと、それぞれのペースでコースを駆け抜けました。厚真中学校陸上グラウンドを発着点とし、町道新町フォーラム線の長い上り下りが続くコースは、体づくりにもってこいのコース設定となっています。各部門1位の記録は次の通りです。（敬称略）

★小学生の部（男女ともに3km）

1年生男子	北川 律	17分06秒	大会新	女子	大垣 弥代	17分00秒	大会新
2年生男子	内沢 維吹	16分08秒	大会新	女子	菊池 紬	18分14秒	
3年生男子	幅田 真汎	16分05秒		女子	久保 若菜	20分46秒	
4年生男子	大友 晴仁	13分32秒	大会新	女子	大垣 杜子	15分28秒	大会新
5年生男子	飯田 拓充	14分03秒	大会新	女子	浅井 碧優	22分29秒	
6年生男子	内沢 慶翔	13分38秒	大会新	女子	北村 波瑠	14分41秒	大会新

★中学生の部

男子（5km）窪田 翔太 26分06秒
女子（3km）菊池 莉多 15分10秒

★一般の部

男性（5km）北川 桂 20分34秒
女性（3km）梶谷みゆき 15分03秒 大会新

厚真中学校発着コースに変更後3年目の今大会では、9部門で大会新記録が更新されました。



満面の笑みの北川さん

★一般男子5kmで優勝！北川さんにインタビュー★

一般男子5kmの部で見事優勝した北川さんは「気温が低く天気もあまりよくありませんでしたが、気持ちよく走れたうえに結果もよく達成感があります」と笑顔で振り返りました。走っていてうれしかった場面を探ねると「いろんな方が応援してくれて、とてもうれしかったです」と即答。普段は雨の日や出張の日以外、毎日6km走ることを日課としており、「走るのは好きではないので習慣にして続けています（笑）」とのこと。「記録にこだわらず、新しいことにチャレンジしてみようとする姿勢がすでに一等賞！走り終えた達成感を楽しんでほしいです」と、これから参加される方へのアドバイスとエールをいただきました。



「本物に触れる」9月、10月と厚真未来カレッジ開催！

9月14日（日）に、厚真町スポーツセンターでアメリカのプロバスケットボールプレーヤーとして活躍する松田鋼季（まつだこうき）選手を招き、厚真未来カレッジを開催しました。今回は、特別講演とバスケット体験会も実施し、町内外から約30人が参加。講演会の中では、夢に向かって、自分なりの目標をもって取り組むことの大切さや「好きこそものの上手なれ」という言葉のように、自分が夢中になれるものを見つけるために、いろいろな視野をもって人生を生きていってほしいというメッセージが届けられました。

また、10月5日（日）にも、厚真町総合福祉センターでプロマジシャンのアルバトロス・デンカさんを招いてのスペシャルマジックショー及び特別授業を開催。スペシャルマジックショーでは、普段なかなか見ることができない「和妻（わづま）」と呼ばれる、日本古来のマジックを披露いただきました。特別授業では、「披露するまでにどのくらい練習するのか？」「どのくらいのネタを持っているのか？」など、参加者との質疑応答を行いながら、「好きなことを仕事にする」ことについて、深掘りする時間となりました。



松田選手独占インタビュー↑



文化スポーツ教室でみんなでバスケットボールを楽しみました！

9月22日（月）に、厚真中央小学校体育館で総合型地域文化・スポーツクラブ設立準備委員会自主事業として3回目の文化・スポーツ教室を開催しました。今回は、安平町のバスケットボールクラブ「ABIRA LIBERTA」から種石勇樹コーチを招き、バスケットボール教室を行いました。未就学児から大人までの幅広い世代が参加し、リピーター4人を含む過去最多の27人が参加しました。基礎であるドリブル・パス・シュート練習を行った後、最後はミニゲームを行いました。コーチの丁寧な指導で参加者全員が、和やかな雰囲気の中で活動できました。

参加者からは、「久しぶりに本気でプレーできて楽しかった」「子どもと一緒に体験できる機会となって良かった」「普段関わることのない人と交流できて楽しかった」等、総合型地域文化・スポーツクラブ設立準備委員会が目指している姿に近い評価をいただきました。今後も世代をつなぐ文化・スポーツ教室を継続して開催していきます。



ご参加ありがとうございました



親子でシュート練習！

ディスカバリーカルチャー開催！テーマは「南極」

9月28日（日）に、厚真町青少年センターで今年度2回目となるディスカバリーカルチャーを開催しました。第2回のテーマは南極。講師には、これまでに2回の南極観測越冬隊を経験された苫小牧工業高等専門学校の岩波先生を招き、「南極に行くまでにはどのくらいの時間がかかるのか？」「南極ってどのくらい寒いの？」「ペンギンはとってもかわいけどすごく臭い？」などなど、普段は聞くことができない知られざる南極の世界に関する特別授業を実施しました。次回は11月の開催を予定していますので、ぜひご参加ください。



町内外から20人が参加

軽舞事務所 秋の特別開放事業とせんべい焼

秋の特別開放事業として11月16日(日)午前9時から午後5時まで軽舞遺跡調査整理事務所を開放します。特別企画として、昨年も大変好評の昔ながらの“せんべい焼き体験”を行います。

せんべい焼きは、写真(右)の道具を使って、炭火で焼き上げる「南部せんべい」のようなせんべいができあがります。年に1度の体験ですので、ぜひご参加ください。お申込みをお待ちしています。

その他、軽舞遺跡調査整理事務所には懐かしい郷土資料がたくさんありますので、この機会にぜひお越しください。

日 時：11月16日(日) 特別開放 9:00～17:00

せんべい焼き 10:00～、14:00～

各時間先着順 1人5分程度

場 所：軽舞遺跡調査整理事務所(旧軽舞小学校/字軽舞205-2)

参 加 費：無料 人数制限：なし

申 込 み：せんべい焼きは申込み必要 11月12日(水)17:00まで

申込み先：軽舞遺跡調査整理事務所 ☎28-2733(電話は平日のみ受付)

メール shakai@town.atsuma.lg.jp



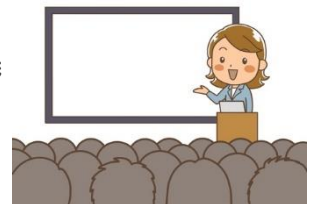
せんべい焼き器

胆振管内体育協議会連絡協議会研修会 ～元日本記録保持者(400mリレー)～

北翔大学陸上競技部監督

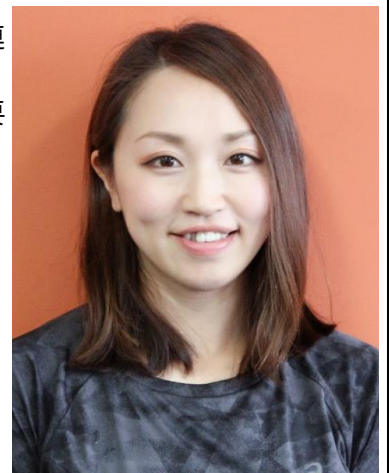
きたかぜさおり

北風沙織さんによるスポーツ講演会



胆振管内の各市町体育(スポーツ)協会で組織する胆振管内体育協議会連絡協議会では、毎年各市町持ち回りで研修会を開催しています。本年度は厚真町体育協会が主管し、講演会を行います。申し込みは不要で聴講は無料ですので、町民の皆さんのご来場をお待ちしています。

- 日 時 11月15日(土)午後2時開会
- 場 所 総合福祉センター2階青年室
- 講 師 北翔大学陸上競技部監督 北風 沙織さん
- 講 演 「スポーツを通じた心身の成長」(予定)
- 聴講料 無料
- 問合せ 厚真町体育協会事務局(役場産業経済課内 木戸)
TEL: 27-2486



【講師略歴】

- 生年月日等 1985年4月3日(40歳)、釧路市生まれ、江別市出身
- 学 歴 北海道恵庭北高等学校卒業、北海道浅井学園大学(現・北翔大学)卒業
- 専 門 短距離走
- そ の 他
 - ・中学、高校、大学時代それぞれ100mで日本一に輝く
 - ・100mの自己ベストは11秒42
 - ・4×100mリレーでは、43秒39の日本記録(当時)を保持
 - ・2021年にクラブチーム「北海道ブレーメンズ陸上部」を設立、2022年には母校である北翔大学陸上競技部の監督に就任。
 - また、2018年に長男を出産し、産後1年で11秒台まで走りに戻すなど、ママさんアスリートとしても活躍している。



公益財団法人日本公衆電話会様から 『こども手帳』を寄贈いただきました



9月25日(木)、公益財団法人日本公衆電話会様から地域社会の安全・安心に関する公益事業活動の一環として、小学4年生を対象とした「こども手帳みんなで守ろう社会のルール」65冊とDVD2枚を寄贈いただきました。

こども手帳は、交通事故、犯罪、災害、インターネット・スマートフォン利用マナーなど、子どもが安全に生活するために身に付けておきたい知識や考え方をまとめた副読本的教材です。寄贈いただいた教材は、子どもたちの安全安心な学びに大切に活用させていただきます。



陶芸教室開催のお知らせ

「陶芸教室」を開催します。今回は「かたおこし」という方法を使いお皿を作ります。子どもから大人まで楽しんでお皿を作りましょう。興味のある方は、ぜひご参加ください。

日 時：11月8日(土) 9:00～12:00 (予定)
場 所：創作館じゅらく舎 陶芸室 作品：お皿づくり(かたおこし)
定 員：15人(小学3年生以上(小学生の参加は保護者同伴))
講 師：石山 容氏・厚真町陶芸同好会会員 参加費：800円(粘土・釉薬代)
持 ち 物：スリッパ・ぞうきん・エプロン
申 込 み：11月5日(水) 17:00まで
申込み先：厚真町教育委員会社会教育グループ ☎27-2495



第31回

ミニバレーボール ウィンターリーグ

日 時 11月9日(日)
開 会 式 9:00
終了予定 16:00
場 所 厚真町スポーツセンター
参 加 料 無料
参加対象 中学生以上(Bリーグの男女混合チームは40歳以上)の町民または町内に職場を有する方(厚真高校生も可)
参加方法 10月31日(金)までに、参加申込書を下記あてに持参またはFAXで提出してください。

※大会の詳細については、自治会回覧のチラシをご覧ください。

【申込み・問合せ】

教育委員会社会教育グループ

☎27-2495/FAX27-3178

9月定例教育委員会

9月25日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告事項

9月校長会議、教頭会議について／令和7年度小学校プール利用の実績について／児童生徒芸術鑑賞会／第22回集まりオリンピック／富里地区埋蔵文化財発掘調査／第2回厚真未来カレッジ／北海道大学オリエンテーリング大会／ウポポイ見学ツアー／放課後子ども特別教室HOKA G O O／土器の野焼き／英会話教室(第2期)／二十歳のつどい実行委員会の発足／厚真町文化祭ウィークの開催予定

◆同意

厚真町教育委員会表彰について

◆その他

厚真町花卉部会からの花束贈呈について／教育委員学校訪問について／厚真町・厚真町教育委員会荣誉賞授与 他2件

★問合せ

教育委員会学校教育グループ

☎27-2494

図書室だより

10月27日～11月9日は

読書週間です

「こころとあたまの、深呼吸」を標語に、全国の図書館、書店で関係イベントが開催されます。青少年センターでは11月1日に『図書フェスティバル』を開催します。

季節がすすみ、あいさつにも雪の話題が出る時期になりました。今年の標語にもあるように、本を読むと頭がすっきりして良い考えが浮かびませんか？ 畑の片付けや家周りの冬支度を済ませた後は、暖かい室内でゆっくりと読書を楽しみましょう。

平日限定



コーヒー・お茶
セルフサービス

11月から、図書室カウンター横のスペースで、コーヒーとお茶のセルフサービスを始めます。

インスタントコーヒーとお湯とカップをご用意しますので、お散歩途中や待ち合わせの合間などにご利用ください。その日の分がなくなりしだい終了となります。

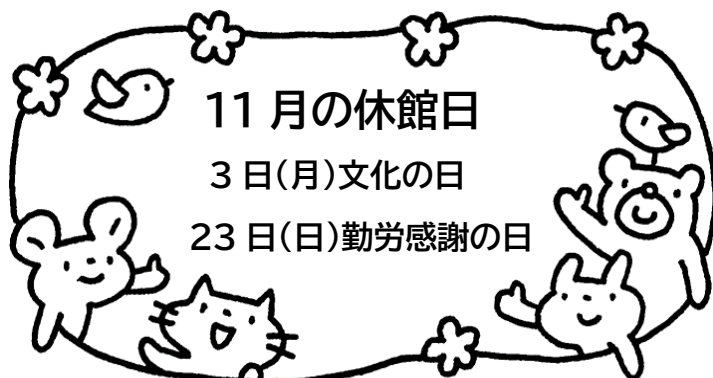
※セルフサービスとなっていますので、お気軽にご利用ください。



リサイクル図書・雑誌の配布について



現在、新庁舎周辺整備事業に伴う仮移転へ向けて図書室の本を整理中のため、青少年センター入口横に廃棄予定の本を並べて配布しています。希望がない本については、1カ月を過ぎた頃に廃棄処分となります。日焼けしていたり、折り目がついていたりとちょっとくたびれていますが、掘り出し物があるかもしれませんので、たまに本棚をチェックしてみてくださいね。



11月の休館日

3日(月)文化の日

23日(日)勤労感謝の日

■青少年センター図書室開館時間

9時00分～17時00分(月・水・金・土・日)

9時00分～19時00分(火・木)

※祝日、年末年始は休館となります。

■厚南会館図書室

9時00分～17時00分(月～日)

※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

あそびに
きてね！

11月の「おはなしのびっ子」による絵本の読み聞かせは、
27日(木) 10時00分から10時30分まで
場所：厚南子育て支援センター です



☆ 放課後子ども教室活動報告 ☆

子ども教室の活動が終わり学校を出ると、お日さまの姿はすでに地平に沈み、うっすらと残った明るさの中を歩く秋の帰り道。気温も下がり、それまで半袖で遊んでいた子どもたちも、いそいそと上着を羽織り始めます。そろそろ手袋や毛糸の帽子なども必要になってきそうです。

9月1日は防災の日。9月は厚真町にとっても忘れられない胆振東部地震の経験があり、災害への備えを改めて深く考える人が多いのではないのでしょうか。子ども教室では、子どもたちから人気を博している『謎解き宝探し』というプログラムがあり、今年は防災の要素を取り入れた内容でお届けしました。子どもたちには20種類の防災グッズをアイテムとして提示し、そのうちのいくつかのアイテムカードとコインが入った封筒を渡します。手元にあるカードとコインをうまく活用し、制限時間内に全種類のアイテムを集めるゲームを行い、チームで手分けをして協力しながら取り組んでいました。アイテムには食料や水、ライトなど防災グッズとしてイメージしやすいものから、現金やお菓子、トランプなども加えました。「なんでお菓子も必要なの?」と首をかしげる子も。非常時に緊張したり、不安を感じたりしているとき、普段食べ慣れたものを口にするだけでも気持ちが落ち着くことがあるんだよ、という話をすると「じゃあ、今度、お菓子を買ってもらったら、防災バッグに入れておこう」と納得した様子でした。ご家庭で備えている防災グッズについて、意識を向けてもらえる機会になればと思います。

高学年の子どもたちとプログラムについて話をすると、「キンボールはいつやるの?」という声が挙がります。近年、一部に熱烈に支持されている『キンボール』というスポーツ競技があります。4人1組でチームをつくり、同時に3チームがコートに入り、直径122センチ・重さ約1キロの大きなボールを飛ばしたり受けたりしながら点数を競っていくゲームです。体を動かすことはもちろんですが、相手チームが取りにくいところにボールを飛ばすために頭も使います。また、仲間同士、声をかけ合い協力してボールを追いかけるため、チームワークも必要です。教育活動の中でも子どもたち一人ひとり、個の主体性が尊重される流れがあり、“みんなでやる”“集団遊び”といったまとまりのある活動に対する価値をどう見るか、難しいところに立っています。子ども教室ではあえてプログラムの時間として、みんなで同じ活動をする経験も大事にしたいと考えています。スポーツでは特に勝ち負けが決まることで、感情的になってコミュニケーションの取り方を間違ってしまうこともあります。こうした気持ちの動きが子どもたちの成長に必要な要素だと思っています。うまくいかないことを、どうチームで解決していくか、今回のキンボールを通して、たくさん練習できた子どもたちでした。

